

## 令和3年1月28日献血推進調査会報告

令和2年度 厚生労働科学研究費補助金 医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業  
新たなアプローチ方法による献血推進方策と血液製剤の需要予測に資する研究

# 献血の需要と供給の将来推計

田中 純子

広島大学 大学院医系科学研究科  
疫学・疾病制御学



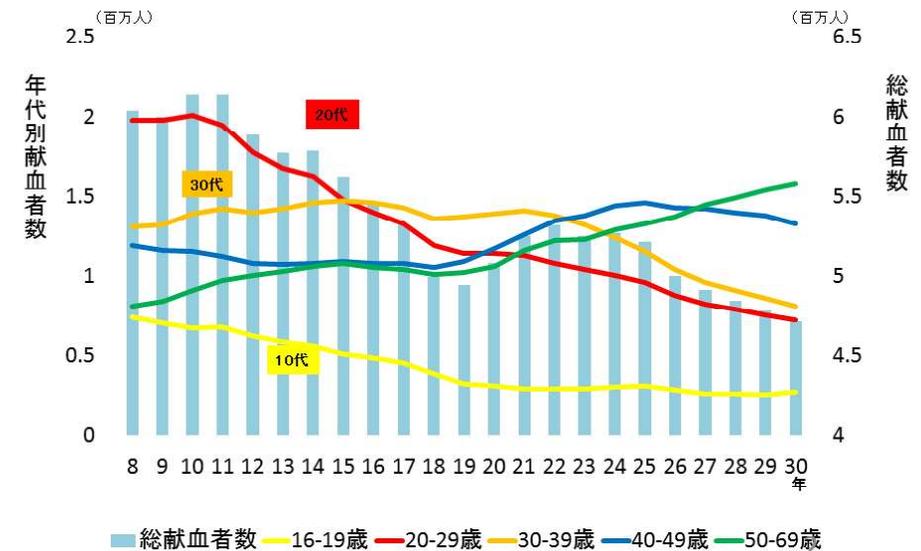
疫学&データ解析新領域プロジェクト研究センター

# 背景・目的

## 研究概要：

- 本研究は、次の3つの研究の柱からなる。  
「血液製剤の医療需要と供給の予測に関する研究」、  
「若年者の献血推進の方策と教育資材の開発」、  
「対策の効果と評価,効果測定指標に関する研究」
- エビデンスに基づいた献血施策の基盤となる成果の提示を、人口動態、社会行動確率論的、情報マネジメント、社会医学的、医歯薬学教育など多岐にわたる研究分野からのアプローチにより目指す。
- 成果は、献血推進に関わる施策立案時の科学的根拠として、また、献血推進の目標となる情報として活用可能である。

年代別献血者数の推移



日本赤十字社HPより引用

# Step 1. 【項目 1. 血液製剤の需要に必要な献血本数】 (令和元年以降/2019以後) 解析結果のまとめ

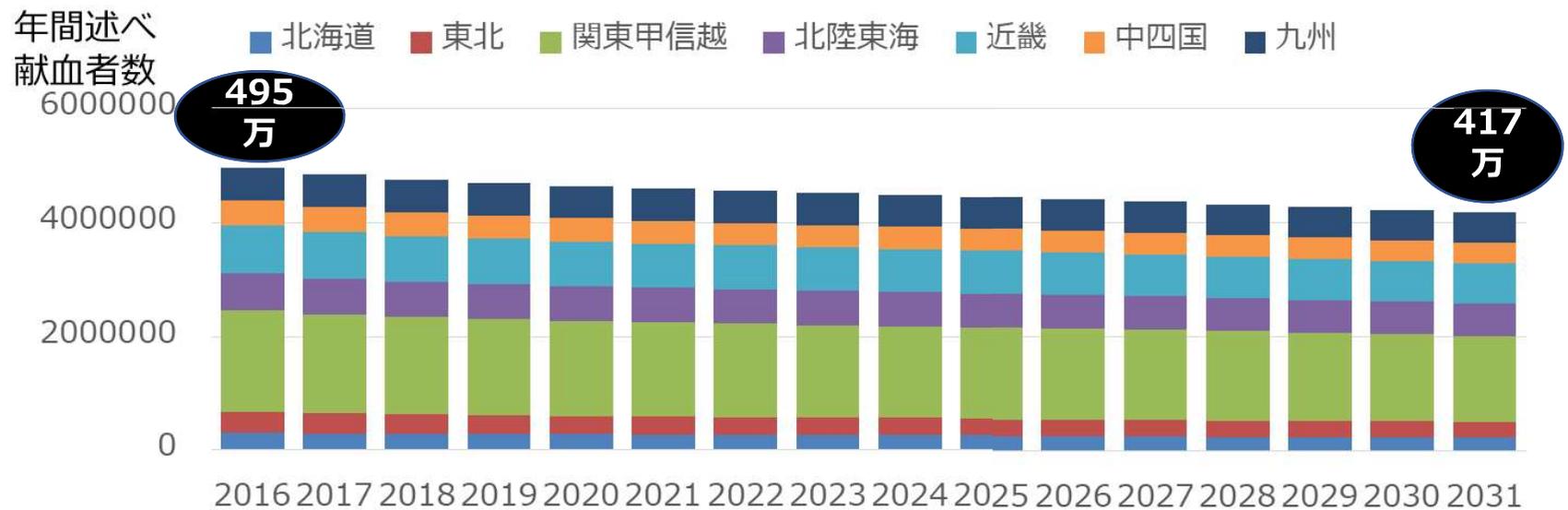
需要推計結果	赤血球製剤＋全血製剤 (単位)	血漿製剤 (単位)	血小板製剤 (単位)
2020年	6,501,490	2,246,145	9,224,208
2022年	6,445,074	2,220,999	9,189,842
<b>2025年</b>	<b>6,268,815</b>	<b>2,152,035</b>	<b>9,005,576</b>
2027年	6,103,783	2,090,059	8,812,298
2030年	5,838,567	1,991,633	8,492,632

必要献血者数 ※	全血献血		血漿献血		血小板献血 (人)	合計 (人)
	200ml献血 (人)	400ml献血 (人)	製品用 (人)	原料用 (人)		
2020年 Low	134,704	3,232,897	205,723	492,085	865,280	4,930,689
High				772,131		5,210,735
2022年 Low	133,535	3,204,844	203,420	517,677	862,056	4,921,532
High				799,688		5,203,543
<b>2025年 Low</b>	<b>129,883</b>	<b>3,117,198</b>	<b>197,104</b>	<b>485,255</b>	<b>844,771</b>	<b>4,774,211</b>
<b>High</b>				<b>760,371</b>		<b>5,049,327</b>
2027年	126,464	3,035,135	191,428	未算出	826,641	未算出
2030年	120,969	2,903,255	182,413	未算出	796,654	未算出

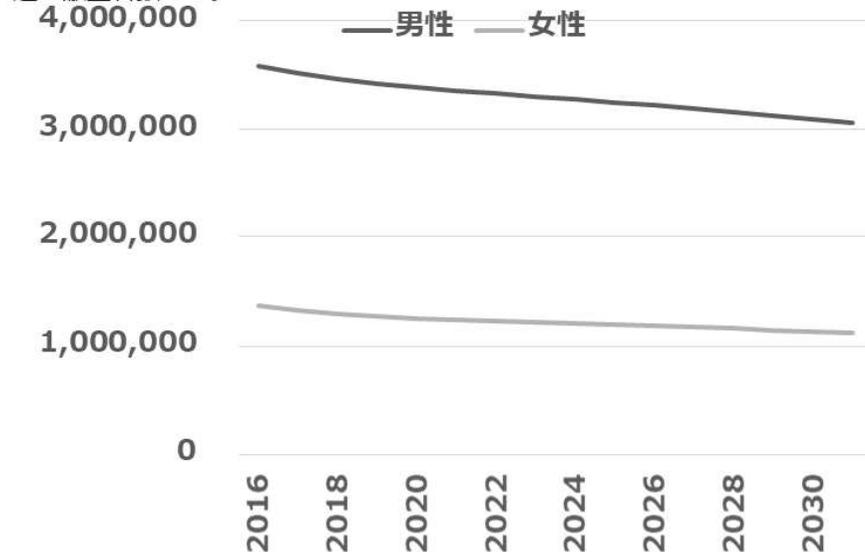
※ NDB解析に基づく免疫グロブリン製剤使用本数が、血液事業報告に基づく免疫グロブリン製剤供給量と比べて10~15%低い（病院でのストック分、公費負担分など）ことから、NDB解析に基づく需要推計値をLow予測、その差分を加味して、原料血漿の需要を1.14倍（2018年実績）にして算出したものをHigh予測とした。

# Step 2. 【項目2. 献血者数と献血率の予測値】 令和13年/2031まで

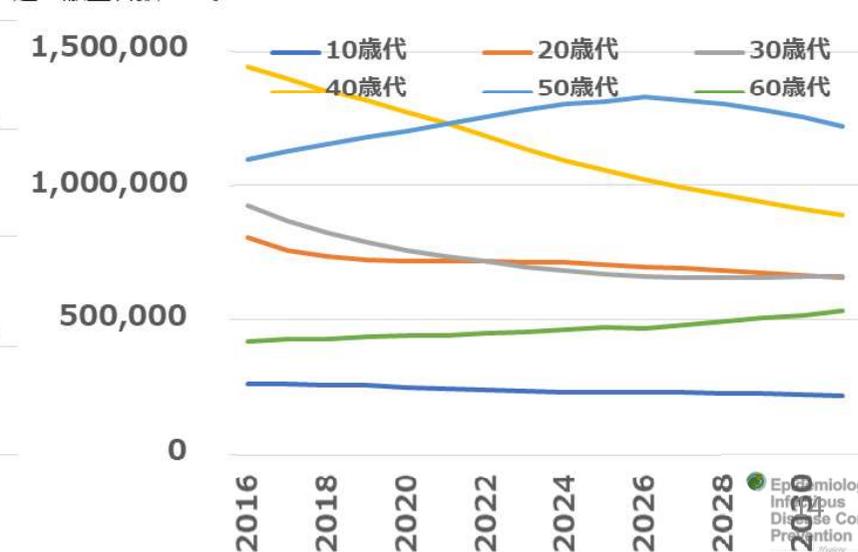
## 2-1 結果 献血者数



a) 男女別にみた推定のべ献血者数

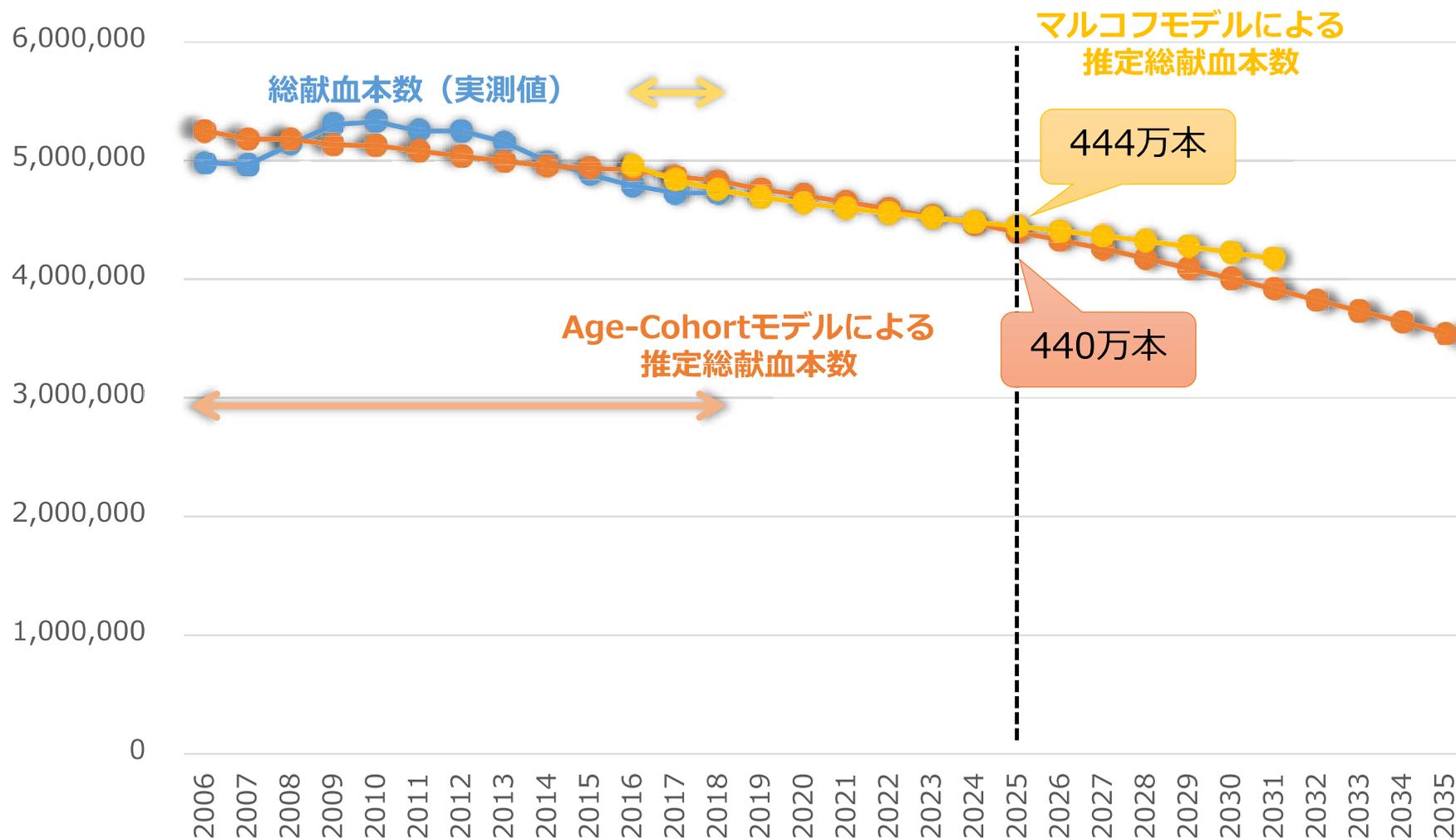


b) 年齢階級別にみた推定のべ献血者数



## Step 2. 【項目2. 献血者数と献血率の予測値】 令和13or 17年/2031 or 2035まで 結果③2-1マルコフモデルによる解析と2-2 Age-Cohortモデルによる解析の比較

総献血本数（本）



# 今回算出した2025年献血率目標値と 献血推進2020の献血率目標値との比較

2025年の必要献血者数と推計献血者数との差分（約33～65万人）を確保するための献血率目標値を算出した。「献血推進2020」の献血率目標値と比較すると、今回は低い値となったが、これは「献血推進2020」推計（H26）の必要献血者数の推計値が537万人であったのに対し、今回の2025年の推計値が477～505万人と低いためであったと考えられる。

## 献血推進2020達成目標

### 2. 平成32（2020）年度までの達成目標

項目	目標	厚労省献血推進調査会 による2020年目標値	
		H25 年度実績値	H32 年度目標値
若年層の献血者数の増加	10代(注1)の献血率を増加させる。	6.3%	7.0%
	20代の献血率を増加させる。	7.2%	8.1%
	30代の献血率を増加させる。	6.7%	7.6%
安定的な集団献血の確保	集団献血等に協力いただける企業・団体を増加させる。	50,712 社	60,000 社
複数回献血の増加	複数回献血者(年間)を増加させる。	996,684 人	1,200,000 人
献血の周知度の上昇	献血セミナーの実施回数(年間)を増加させる。	1,128 回	1,600 回

(注1) 10代とは献血可能年齢である16～19歳を指す。

## 田中班による2025年目標値

16-69歳で捕捉する場合	16-39歳で捕捉する場合
5.7～6.2%	6.5～7.5%
6.0～6.7%	6.9～8.1%
5.3～6.0%	6.1～7.3%

## 参考：必要献血者数

H26推計の2020年必要献血者数は**537万人**

田中班推計の2025年必要献血者数は**477-505万人**